

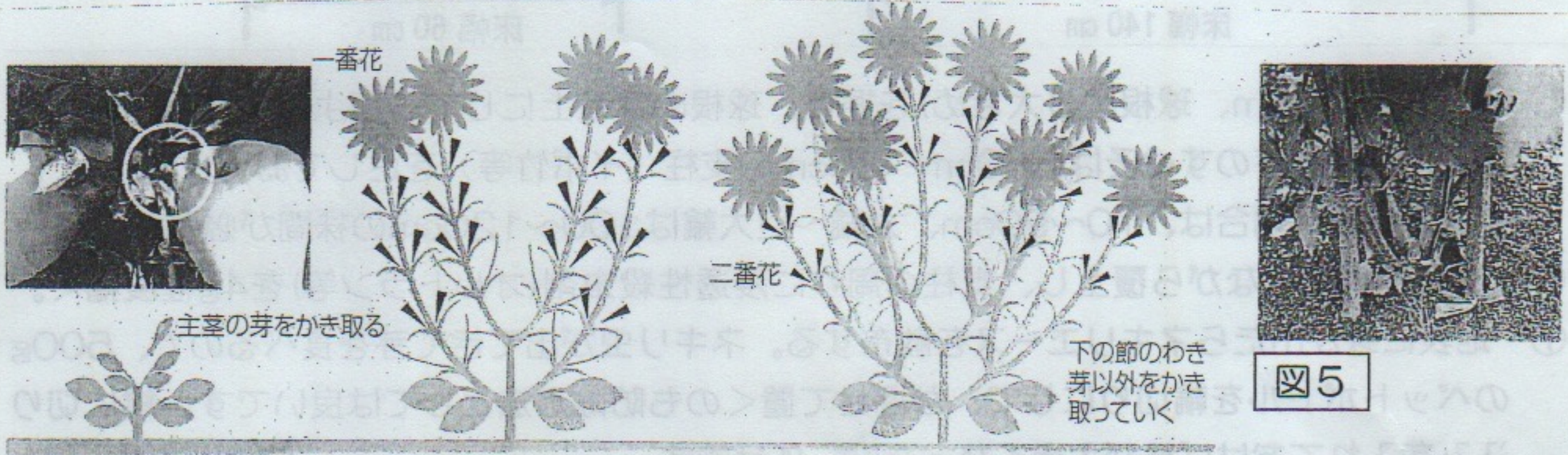
囲むように下の芽が伸び、葉が花を隠してしまい、葉が広がり緑一色のダリア園になってしまいます。これを防ぐためにダリア園では全ての株を摘芯しています。

天花仕立て 下2節の葉と茎の間に生えてくる脇芽を残し、そこより上の主茎の脇芽を全てかき取る。こうして一番花を咲かせる。一番花が終わったら花の下でもぎ取り、下2節の脇芽4本を生長させ二番花を咲かせる。



摘芯仕立て

地表から3~4節伸びたところで主茎の中心の若い芽をかき取る。節から伸びてくる脇芽4本を生長させ、この茎に一番花を咲かせる。



天下仕立ての特徴

天花仕立ては、側枝の生長が遅れるため、二番花の開花に時間を要する。継続して花を楽しみたい場合は、摘芯仕立てがおすすめ。

摘芯の方法

- ① 草丈が15cm前後になる頃(植え付けてから3週間前後)になると4葉芽が伸び、その間に5葉芽(新芽)が出てくる。その5葉芽が1~2cmになったら横に倒すようにしてかき取る。この時、脇芽を傷めないように注意。 図1参照
- ② 一番花の芽かき(6月中旬頃~)と枝葉の整理
摘芯後2週間程で、各節から2本の脇芽が伸びてくる。その4本の脇芽を伸ばして一番花を4本咲かせる。頂花につぼみが着いたら、つぼみから下3節の脇芽をかいてやる。こうすることにより、花軸がしっかりし、花が大きくなる。
一番花が咲き終わったら、手で付け根から取る。また、風通しを良くし、次の芽に日光を当て成長を促進させるために、上から1節目の2枚の葉を残して次の花芽の節まで全ての葉をかく。 図2参照
- ③ 二番花の芽かき(7月中旬頃~)と枝葉の整理
若芽は、大輪・巨大輪系の場合一枝から2~3本立てる。(図7 A.B.C参照)
基本は内側の枝に2本、外側の枝に3本、小・中輪系は同じようにして4本の若芽を残す。